

平成19年度病虫害発生予察特殊報第6号

平成20年3月18日

発表：福島県病虫害防除所

病害名 トマト葉かび病菌（レース4.9.11）

【病原 *Fulvia fulva* (Cooke) Ciferri】

作物名 トマト

1 発生状況

平成19年8月に、会津地方の夏秋トマト：品種「桃太郎なつみ」葉かび病抵抗性（*Cf-9*）において、葉かび病の症状を呈する株を確認した。農業総合センターにおいて病斑上の分生子を検鏡したところ、葉かび病の分生子が確認された。その後、中通り地方でも同品種において葉かび病の発生が確認された。

葉かび病にはいくつかのレースが確認されているが、日本ではこれまで抵抗性遺伝子*Cf-9*をもつ品種で葉かび病の発生が確認されていない。そのため、独立行政法人野菜茶業研究所にレースの検定を依頼したところ、レース4.9.11であることが判明した。

2 病徴

病徴は、葉の裏面に灰黄色のピロード状のかびが密生し、その後、斑点が拡大し菌叢は灰褐色から灰紫色に変化する。抵抗性（*Cf-9*）品種を侵す以外は従来の葉かび病と変わりがない。また、症状が酷似するすすかび病とは肉眼では見分けがつかない。

なお、すすかび病については平成15年に本県での初発生を確認しているが、現在まで問題となるほどの被害は発生していない。

3 伝染方法

病斑上に生じた分生子が風によって飛散し、まん延する。分生子は葉面に生じた露で発芽し、気孔から侵入する。各種資材、被害葉等に付着した菌糸および分生子で越冬する。

4 防除対策

- (1) 葉かび病抵抗性（*Cf-9*）品種（「桃太郎なつみ」等）を栽培しているほ場では発病に注意し、発病が疑われる場合は農業総合センター安全農業推進部（TEL024-958-1709）へ連絡する。
- (2) 発病が確認された場合は早急に葉かび病に登録のある薬剤を散布し、周囲への拡散を防ぐ。
- (3) 栽培終了後、作物残さをほ場外に持ち出し地中深く埋めるなど適切に処理し、使用した資材の消毒を十分行う。
- (4) 多湿にならないよう換気に努め、過度の灌水などは避ける。
- (5) 肥料切れや着果負担による草勢低下は発病を助長するので、適切な追肥を行う。



図1 葉かび病抵抗性 (*Cf-9*) 品種「桃太郎なつみ」に発生した葉かび病の病徴



図2 葉かび病抵抗性 (*Cf-9*) 品種「桃太郎なつみ」に発生した葉かび病菌の分生子

症状が酷似するすすかび病



図3 すすかび病の病徴



図4 すすかび病菌の分生子